

2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）（三次提案受付）採択一覧

No.	組織・団体名	プロジェクト名	開催地	開催時期	概要	採択金額（千円）
1	独立行政法人国立科学博物館	きのこ・カビ・酒～日本の自然と人が育んだ食文化	茨城県	令和2年9月～10月頃（2週間程度）	日本人が特に好んで食べるきのこの多様性や特徴を紹介するとともに、世界に類を見ないほど日本人が高度に発展させたカビ（特に麹菌）による食品の多様性（酒、味噌、醤油等）および他国とはかなり異なる嗜好など、他国との比較を通じて日本の菌を利用した食文化の独自性を考察する。	10,366
2	株式会社日本国際放送 (環境省および独立行政法人国立科学博物館との共同事業)	企画展「国立公園展（仮称）」連携事業	東京都	令和元年～令和3年（国立公園展（仮称）は令和2年8月～10月）	国立科学博物館、環境省が共同で開催する企画展「国立公園展」（仮称）との連携事業。環境省が推進する「国立公園満喫プロジェクト」の取組と連携しながら、最先端技術や高い拡散力を持つ国際メディアを駆使した国内外へのプロモーション活動を行い、多様で豊かな日本の自然と文化を紹介することで、企画展「国立公園展」（仮称）への誘客をはじめ、全国の国立公園への継続した誘客の強化を図る。	40,999
3	神宮の杜芸術祝祭実行委員会 一般社団法人アートパワーズジャパン	「神宮の杜芸術祝祭」 祭る。祈る。創る。—持続可能な自然と芸術文化—	東京都	令和2年3月～令和3年5月	2020年に創建100年を迎える、日本を代表する神社である明治神宮。神宮の自然と日本の近現代文化・芸術のつながりを再認識し、次の100年に向け日本の美の価値の再発見構築と海外発信を目指し、圧倒的な自然の中での野外彫刻展や宝物殿での美術展、神宮周辺で発展したアニメやファッション等の現代文化関連企画展など、多様な芸術文化催事企画を、年間を通して実施、併せて、被災地復興や地域創生のイベントを開催することで、祈りの心を世界に発信する。	20,554
4	独立行政法人国立科学博物館 (国立近現代建築資料館との共同事業)	「日本のたてもの — 自然素材を伝統技術に活かす知恵」	東京都	令和2年	本展は、木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物へ昇華させた日本の伝統建築のうち、その縮小表現によって高い美意識と加工技術を際立たせた建築模型に焦点をあて、自然素材を活かした造形的特徴を飛鳥時代から現代までの我が国を代表する建築物の模型により、飛鳥時代から現代までのたてものを通史的に俯瞰するものである。	8,762
5	独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館	パッション20—近代工芸史にみる「日本研究」の軌跡（仮称）	東京都	令和元年12月20日～令和2年3月8日	《十二の鷹》（重要文化財）をはじめ、明治から現代にいたる作家たちの情熱を主軸とし、素材と表現によって豊かな自然を二重に看取る工芸の様相を展覧する。多言語（日英中韓）展示に加え、スタンプラリー付セルフガイドなどの印刷物や鑑賞プログラム「タッチ&トーク」も和英で用意する。その他多様なプログラムによって端正な作品の奥に潜む熱い想いと豊かな自然観に直接触れて、「日本」の魅力を十分に堪能していただきたい。	30,051
6	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館	特別展「きもの KIMONO」	東京都	令和2年4月14日～6月7日	日本文化のシンボルの1つであり、日本の美意識を色と模様を表した「きもの」。本展では、800年を生き抜き、今なおあたらなファッション・シーンを繰り広げるきものを、現代を生きる日本文化の象徴として展覧し、きもの過去・現在・未来を見つめる機会とする。歴史的・美術的な文化財を国内外から借用して展示するほか、多彩なイベントを通して、日本の伝統文化の素晴らしさを知る機会を提供する。	6,902
7	独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館	特別展「聖林寺十一面観音菩薩像と三輪山信仰」 —日本人の自然観と造形美—（仮称）	東京都	令和2年6月16日～8月31日（予定）	古代仏教彫刻の優品である聖林寺十一面観音菩薩像と法隆寺地藏菩薩像等を展示する。これらの像は三輪山を御神体とする大神神社の神宮寺に祀られていた。本展では両像の造形美を紹介するとともに、三輪山をはじめとした原初の自然信仰を示す各地の聖地の映像を展示し、日本人の自然観を伝える。訪日外国人に対しても、日本人の自然信仰とともに歴史的なストーリーを身近に感じられる空間を演出する。	27,429
8	独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所	「日本美術の魅力（在外古美術品保存修復協力事業による修復作品里帰り展）」	東京都	令和3年1月～3月	この展覧会では、日本で修復された海外コレクションの重要な日本美術作品をその伝統的な技術や材料とともに紹介する。1991年に開始した東京文化財研究所の「在外日本古美術品保存修復協力事業」では、世界15カ国の約380点の絵画・工芸作品を修復している。本展は日本人と自然というテーマで精選した、海外コレクション作品の稀少な展覧であり、国際的な視点から日本美術のコレクションと鑑賞の歴史について改めて考える機会とする。	16,922

2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）（三次提案受付）採択一覧

No.	組織・団体名	プロジェクト名	開催地	開催時期	概要	採択金額（千円）
9	独立行政法人日本芸術文化振興会 国立劇場	国立劇場歌舞伎公演『通し狂言 孤高勇士嬢景清一日向嶋—』	東京都	令和元年11月2日～25日	一門を滅ぼした源氏への復讐を志す平家の勇士・悪七兵衛景清を主人公とする作品群は「景清物」と呼ばれ、能をはじめとする様々な芸能で名作が生まれた。本公演では景清父娘の情愛を綴った名高い「日向嶋」を中心に、明治以降初めての上演となる「大仏供養」を含め、通し狂言『孤高勇士嬢景清一日向嶋—』と題して再構成したものを上演する。孤高の武士・景清の悲劇と糸滝との情愛が描かれた魅力溢れる舞台をお楽しみいただけるだろう。	13,657
10	独立行政法人日本芸術文化振興会 国立劇場	Discover BUNRAKU —外国人のための文楽鑑賞教室— 『解説 文楽の魅力』 『平家女護島』	東京都	令和元年12月9日、14日	Discover BUNRAKUは、海外の方にも日本の伝統芸能である文楽をお楽しみいただくためのプログラムである。第1部は実演を交えた英語による文楽についての解説、第2部では英語字幕付きで近松門左衛門の傑作といわれる『平家女護島』より「鬼界が島」の上演を行う。本作品では敵方である平家打倒に失敗した主人公俊寛をとりまく悲劇が描かれる。卓越した人形遣いの技、心打つ義太夫節によって織りなされる感動的なクライマックスを体感できるだろう。	9,471
11	凸版印刷株式会社	日本文学展2019—文学とメディアの千年譚—	東京都	令和2年3月15日	「古事記」や「日本書紀」などの創世記から始まった我が国の文学は、平安期に大陸伝来の文明を我が国独自の文化へと昇華させて礎を築き、王朝文化から武家文化、大衆文化へと変化する時代を反映しながら数多くの優れた作品を生み出してきた。こうした文学の歴史をメディアの進化史から読み解くために、本年度は、現存する文化財から紙と墨の素材や製法等を分析し、作品が制作された当時の姿で再現する文化財リマスターに取り組む。制作した作品と取り組みの様子はシンポジウムで一般公開する。	12,677
12	日本橋地域ルネサンス100年計画委員会	日本博 in 日本橋	東京都	令和元年10月25日～11月4日	江戸時代から様々なヒトとモノが集まり、豊かな文化が育まれてきた街、日本橋。その日本橋で「江戸の美」を発信する数々のイベントを開催する。開会記念式典では、江戸町火消の無形文化を継承する江戸消防記念会による木遣りを実演。歴史ある名建築をたどる「重要文化財めぐり」や、浮世絵をテーマとした「木版画摺り実演」なども行う。老舗飲食店による「江戸食文化の体験ワークショップ」では、伝統を受け継ぐ料理人自らのレクチャーを受けることができるなど、日本橋ならではの特別な文化体験をお楽しみいただける。	14,569
13	文化庁文化財第二課 国立近現代建築資料館	「丹下健三と日本の近現代建築」展に伴う海外発信とレガシー創生	東京都	令和2年6月～10月	本事業は、日本の戦後建築を象徴する建築家丹下健三について、その作品と言説をもとに世界的な視野から丹下建築の在り様と現代への影響を探ることを目的とし、2020年7月4日～10月11日に企画展示「丹下健三と日本の近現代建築」を開催するとともに、付随事業として、図面や模型の保全に係る教育講座、丹下作品の見学会、国立代々木競技場建設フィルム上映会などを実施し、丹下建築にまつわる文化的・学術的価値を後世に引き継ぐための活動を行う。	4,919
14	宮崎県	みやざきの神楽 魅力発信強化事業（仮称）	東京都、大阪府、福岡県	令和元年9月7日、8日、10月10日、11月17日、令和2年2月15日	宮崎県には200を超える神楽が大切に保存・継承されており、国の重要無形民俗文化財に指定された神楽が4件と全国最多である。今回、九州国立博物館（福岡県）、国立能楽堂（東京都）、國學院大學（東京都）、国立文楽劇場（大阪府）の4箇所で行うことにより、本県の神楽の魅力や多様性を国内外へ発信するとともに、本県への観光誘客を促進する。	3,753
15	障害者の文化芸術国際交流事業実行委員会 （厚生労働省：連携）	2020 東京大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル — 2020 グランドオープニング—	滋賀県	令和2年2月7日～9日	「日本人と自然」を障害者の視点を通じて国内外に発信する、文化芸術フェスティバルのグランドオープニングイベントである。グランドオープニングでは国内外で高い評価を受けているアール・ブリュット展、舞台芸術やバリアフリー映画など障害者の様々な表現活動を一同に観覧することができる。障害者の芸術表現から、日本人が縄文時代から持つ、四季折々の天然の色彩、音の風情を慈しむ心をお楽しみいただきたい。	50,693
16	独立行政法人国立美術館 京都国立近代美術館	「友禪を継ぐ 人間国宝 森口邦彦」（仮称）	京都府	令和2年5月23日～7月12日	友禪の技法で人間国宝に認定されている森口邦彦の大回顧展。森口作品の特徴は、花鳥風月を主とする伝統的な友禪の世界に対して、幾何学的視点を通じて空間に普遍的な自然の旋律を響かせていくところにある。本展では、森口の友禪作品の代表作や思考の軌跡ともいえる膨大な草稿、様々なデザイン関連の仕事に加え、森口の基礎を作った京都とバリでの学生時代の初公開の資料類を通じて、森口邦彦の創作活動の全貌を紹介する。	10,184
17	国際障害者交流センター ビッグ・アイ ビッグ・アイ共働機構 （厚生労働省：連携）	障害者の文化芸術創造拠点形成プロジェクト～大型ダンスプロジェクトの企画・実施を通じた共生社会の実現（仮称）	大阪府	令和2年1月、5月、6月、令和3年2月（予定） 2	国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）の完全バリアフリーの環境と誰もが文化芸術活動を楽しめるノウハウ、障害者の国際交流ネットワークを最大限に活用し、誰もが文化芸術を楽しめる環境（「人」「ノウハウ」「技術」「場づくり」）の創出と開発整備の推進をプロジェクトを通じて実現する。日本・アジアで活躍する振付家、プロのダンサーと障害のあるダンサーが協働し、わが国の自然や伝統文化等をベースにした魅力ある大型ダンスプロジェクトを実施することによって誘客力のある障害者の国際文化芸術拠点形成と共生社会の実現へとつながる。	16,511

2019年度日本博を契機とする文化資源コンテンツ創成事業（主催・共催型プロジェクト）（三次提案受付）採択一覧

No.	組織・団体名	プロジェクト名	開催地	開催時期	概要	採択金額（千円）
18	フェスティバル奈良実行委員会	フェスティバル奈良	奈良県	令和元年10月～令和2年3月	「和をもって尊し」とする日本人のこのころの原点は、「はじまりの地～奈良」で生まれ、わが国の芸能の創生と発展に大きな影響を及ぼしてきた。「フェスティバル奈良」は、社寺を核にして継承されていき「奈良のころ～JAPAN SPRITS IN NARA」をテーマに、圧倒的な社寺の歴史的空間を舞台に日本の芸能の粋を一堂に上演するとともに、伝統から最先端の日本の文化を世界に向けて展示する国際芸術祭の確立を目指す。	33,539
19	独立行政法人国立文化財機構 九州国立博物館	縄文王国やまなし	福岡県	令和元年10月29日～12月22日	狩猟採集を主な生業としながら1万年以上もの長きにわたり続いた縄文時代は、今から5000年前～4000年前の縄文時代の中頃に中部高地の山梨県と長野県の一帯で最盛期を迎えた。集落は大型化し、土器には本来の用途である煮炊きに向かないほどの過剰な装飾がなされ、土偶などの呪術具が発達した。本展では、重要文化財釈迦堂遺跡出土品を中心に山梨県から出土したこの時期の品々を展示し、人々の豊かな暮らしについて紹介する。	2,240

1. 採択合計額

334,198千円

2. 採択結果（令和元年9月25日現在）

提案件数49件

採択件数19件